

新任教授のご紹介

長崎大学病院 医療教育開発センター長 教授 **濱田 久之**



経歴

長崎県生まれ。
 平成 7年 大分医科大学卒業
 平成 7-10年 長崎大学病院にて研修後、地域の病院にて内科勤務
 平成11-15年 長崎医療センターに勤務、医師の育成システム作りなどを行う
 平成16年 長崎大学大学院にて博士(医学)取得
 平成16-18年 トロント大学医学部へ留学 アカデミックフェローシップ取得
 平成18-20年 長崎医療センター 教育センター勤務
 平成20-22年 長崎大学病院に新設された医師育成キャリア支援室室長
 平成23年 名古屋大学大学院にて博士(教育)取得
 長崎大学病院 医療教育開発センター 教授

趣味

矢沢永吉の曲を聞きながらゆっくり走ること

こんにちは!7月1日付けで、長崎大学病院医療教育開発センター教授に任命された濱田です。日頃より、患者さんや地域の方々には、新人職員等の教育にご協力頂き大変感謝しています。

皆様がお存じのように、大学病院は、最先端の医療を提供するだけでなく、様々な役割を担っています。その大きな役割のひとつが医療人の育成です。医師、歯科医師、看護師、薬剤師、技師…等、沢山の職種がチームとなって皆様に医療を提供しています。チームの若手職員をプロフェッショナルとして育成する役目を担う教育専門部署が医療教育開発センターです。新人オリエンテーション、専門的な講義、医療用シミュレーション器械による技術訓練、安心安全な医療を提供するための講習

等を職員へ提供しています。お陰さまで、長崎大学病院の専門医養成プログラムは文科省よりトップレベルに認定され、質の高い教育を行っています。

大学病院は、地域医療へ貢献する人材育成する場でもありますが、新聞やテレビで報道されているように、地方の医師不足や看護師不足は切迫したものがあります。今、多くの地域で、住民が主体となって医師や看護師を見守り育てようという機運が高まっています。長崎市民や長崎県民の皆様が、暖かい目で若い医療人の育成にご協力頂ければ幸いです。<若人の集う長崎県/長崎大学病院>をスローガンに頑張りますので、何とぞご支援を宜しくお願いします!



長崎大学病院開院150周年記念連載記事 150年前の長崎の街並みは?

写真で見る 幕末・明治期の長崎 <5>



東山手から見る大浦天主堂

(撮影時期:1865年頃)

写真左に見えるのが大浦天主堂です。現存する日本最古のキリスト教建築物で、昭和8年(1933年)に旧国宝(現重要文化財)に指定されました。写真では足場が組まれているのが見えますので、完成以前に撮影されたものと思われます。

また写真の右側にグラバー住宅と大きな木が見えます。この木は曲がっていることから長崎弁で「よんご松」と呼ばれ、グラバー住宅のシンボルとして知られていました。しかし松くい虫にやられ、明治38(1905)年に切り倒されてしまい現在その姿をみることはできません。

□ 長崎大学附属図書館 幕末・明治期日本古写真メタデータ・データベース <http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/>